

平成20年度 第1回成果発表会

効果的な行政対応態勢の確立：効果的な研修・訓練システムの確立【林チーム】

チーム紹介

京都大学防災研究所 教授 林 春男

2009.02.27

効果的な行政対応態勢の確立： 効果的な研修・訓練システムの確立【林チーム】

4つの課題

- 1) 研修・訓練のための社会システムの構築
- 2) 過去の災害事例等に基づいた研修・訓練システム研究
- 3) 災害対応従事者として有するべき業務遂行能力を数量的に評価する
用具の開発
- 4) シナリオ作成型災害リスクコミュニケーション手法に関する研究開発

研究分担者

京都大学 浦川 豪・鈴木進吾・川辺秀憲

同志社大学 立木茂雄

新潟大学 田村圭子・井ノ口宗成

大分大学 山崎栄一

名古屋大学 木村玲欧・林能成(現静岡大学)

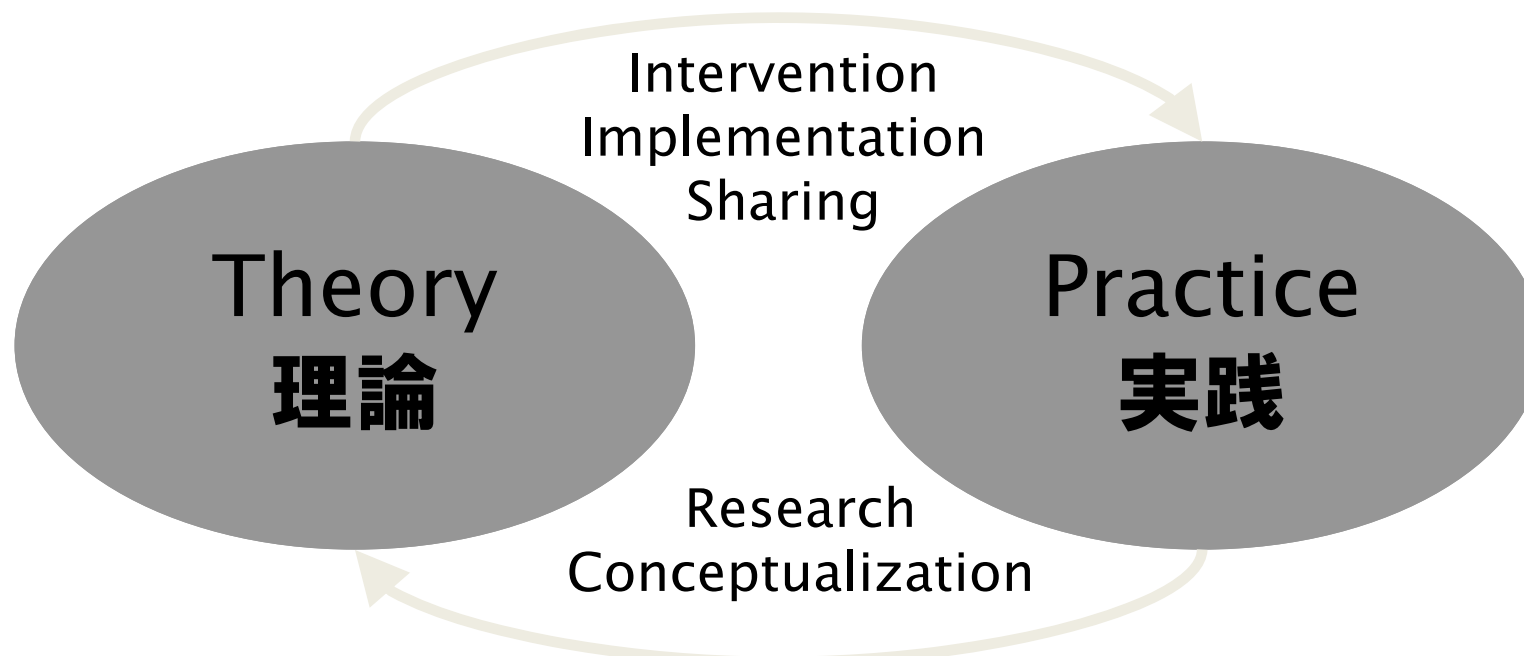
防災科学技術研究所 長坂俊成・永松伸吾・臼田裕一郎・坪川博彰

Action Research

There is no more practical than a good theory

K. Lewin

効果的な災害対応の実現のために、過去の知見と新しい技術を現地の対応支援に生かすことのできる仕組みを構築する



**現場での活動を通して、
新しい問題を発見し、その解決法を研究する**

研修・訓練の目的：現場力を鍛える

Operational Excellence

「まなぶ」
理解している

何をしたいかわからない

言われれば
分かる

「ならう」
体得している

分かっているけど
できない

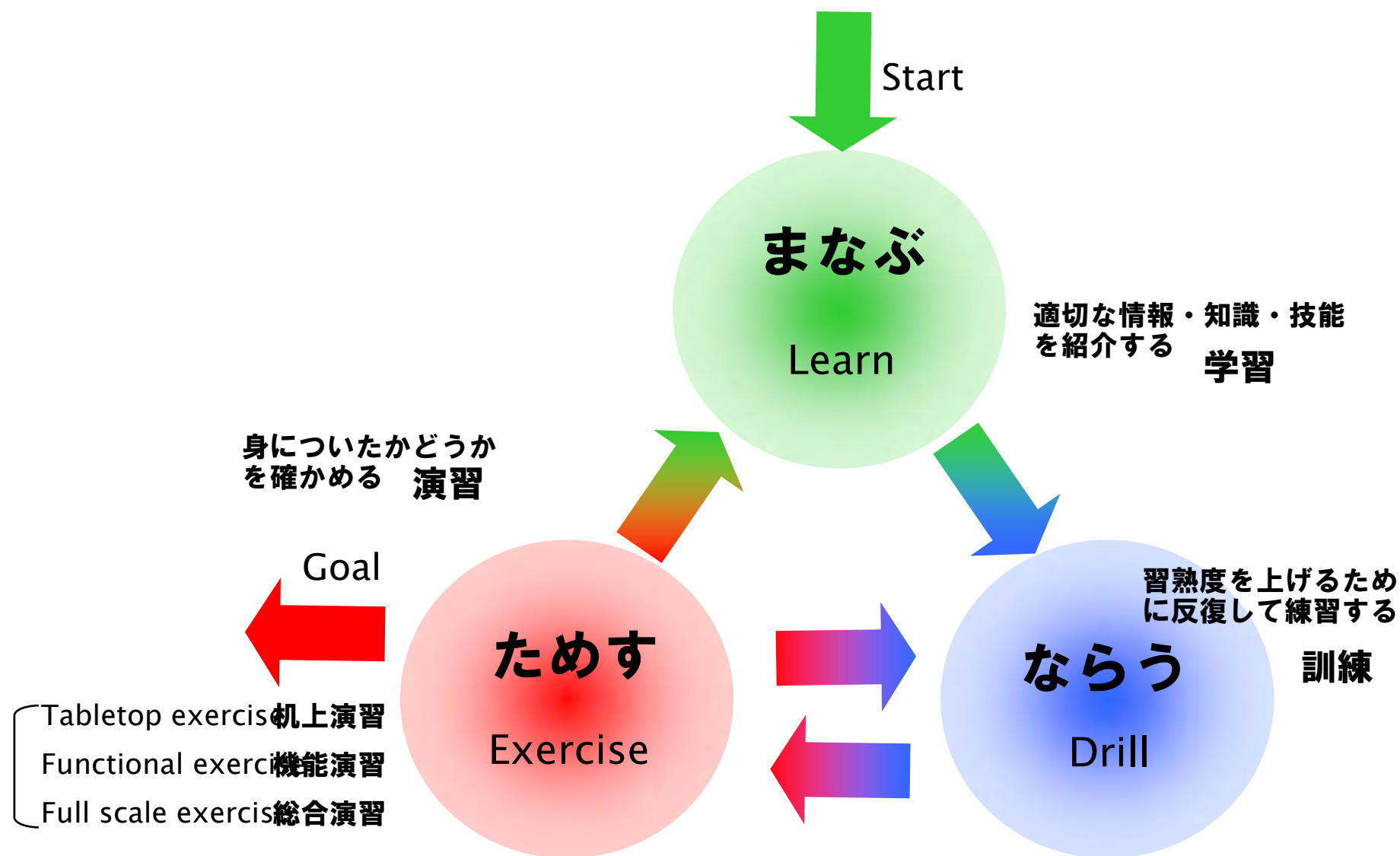
やればできる

「ためす」
実践している

日常化して
いない

普段から
やっている

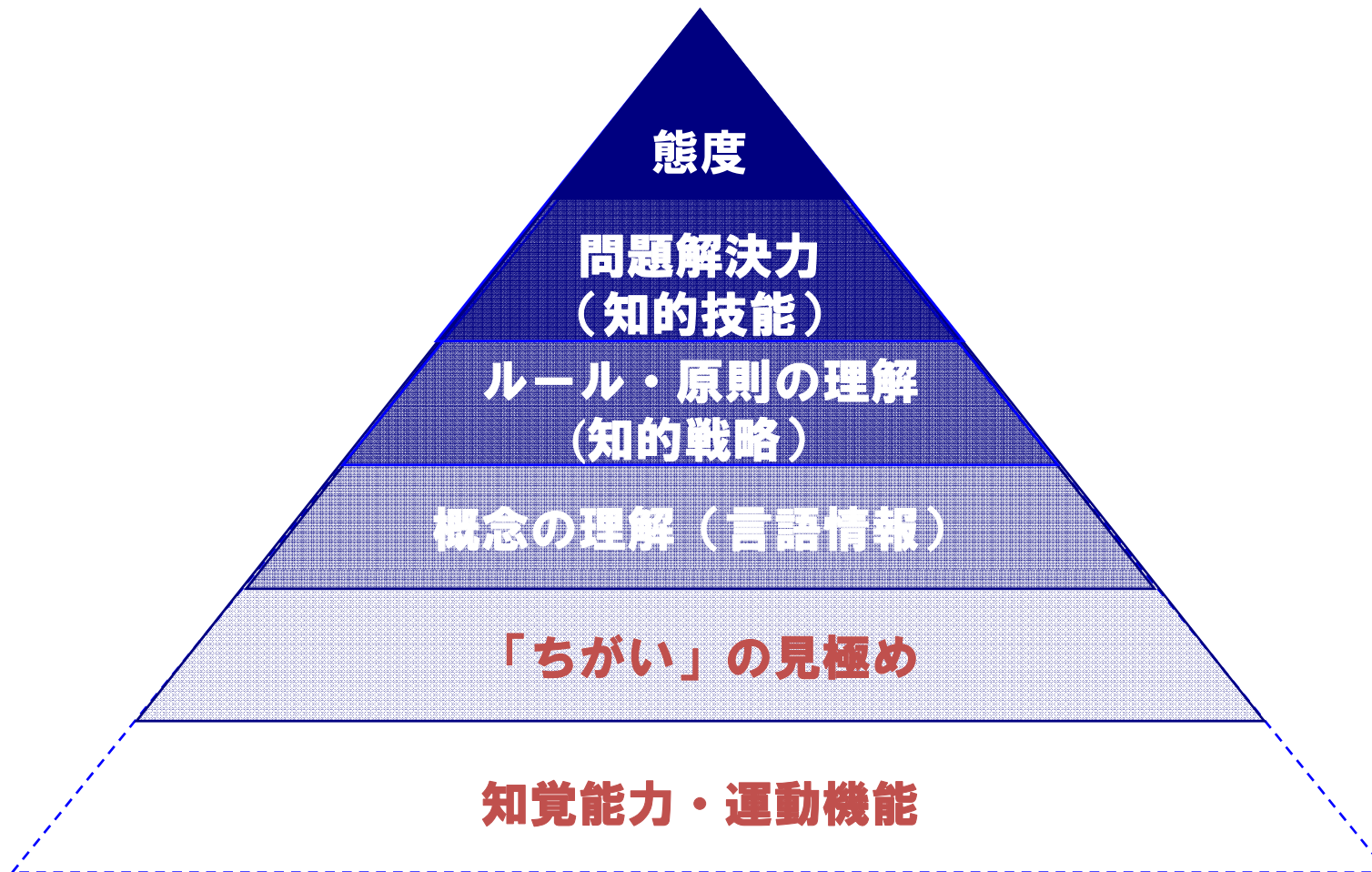
研修・訓練の実践：能動的な学習



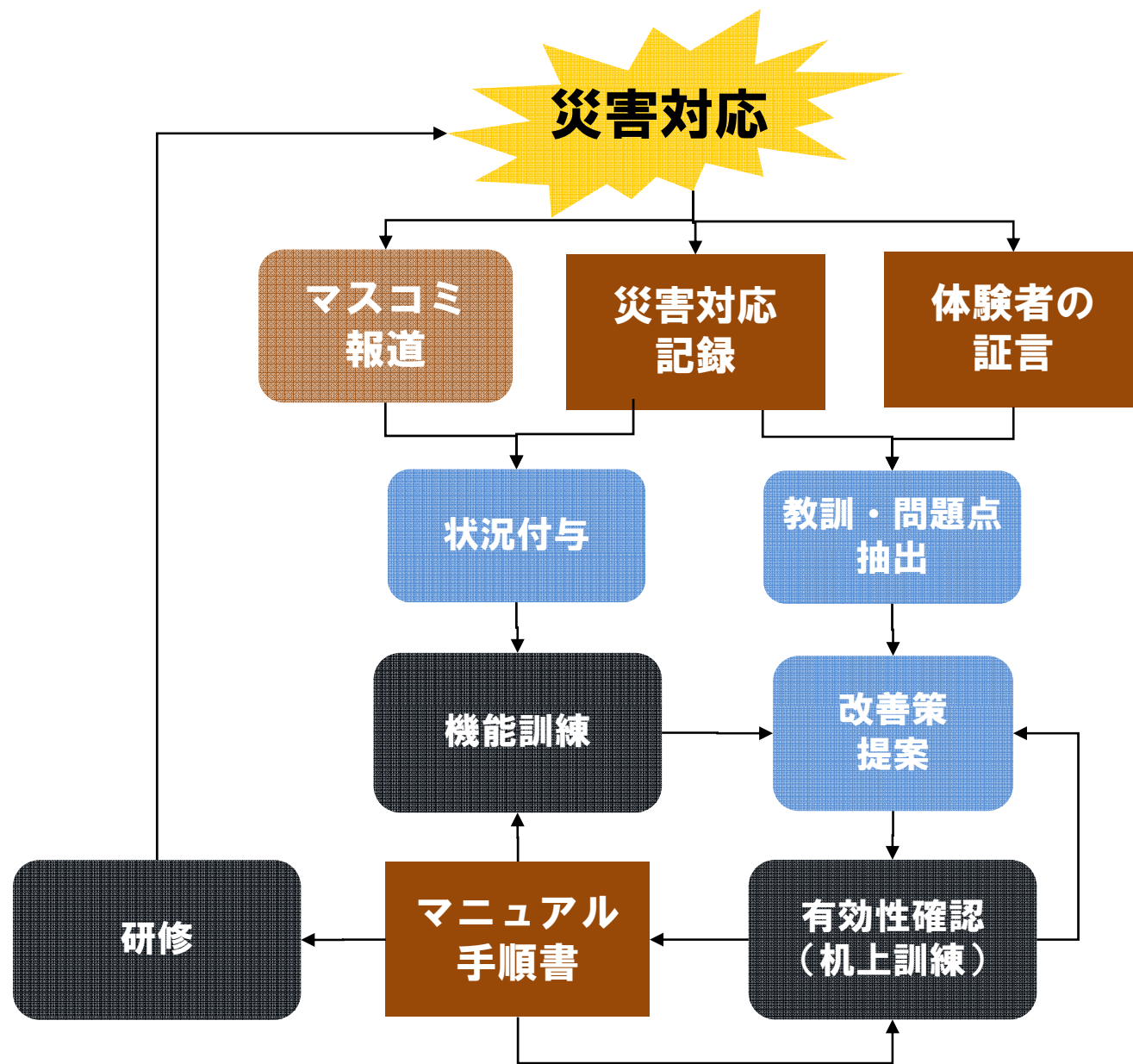
現場力をどのように向上させるか

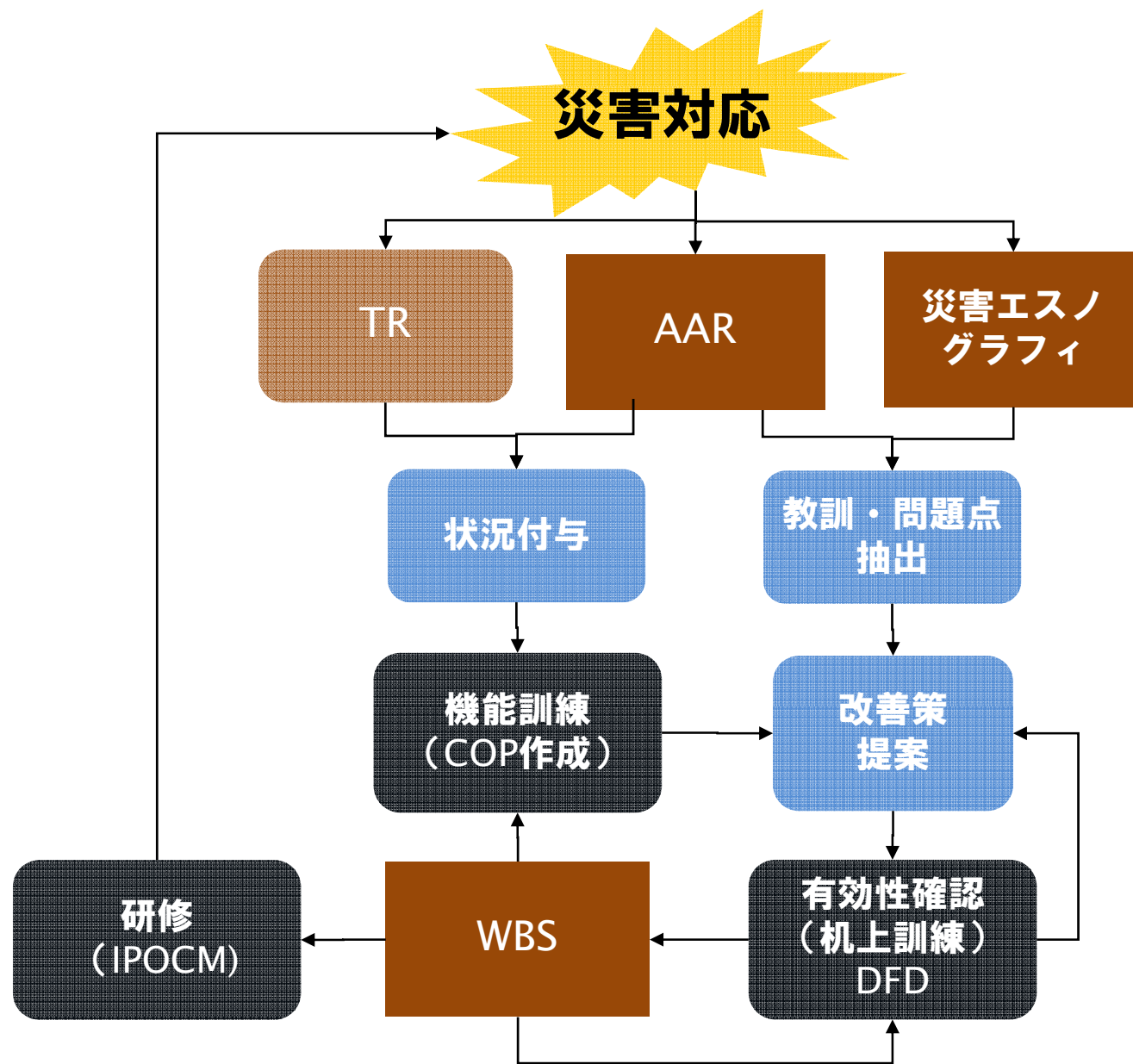
- 何ついて:「～できる」ようになる(コンピテンス)
 - 知識(K): 識別・概念・ルール・問題解決
 - 技能(S): 運動スキル・パフォーマンス
 - 態度(A): 安全な行動を選択できる
 - 言語情報: 言葉を使って、上のすべてを説明できる
- どのような方法で: 内発的動機付けを高める
 - 能動的な学習として
 - 家庭・学校・職場・地域で
 - 「まなぶ」「ならう」「ためす」

習得すべき知識・技能・態度の階層

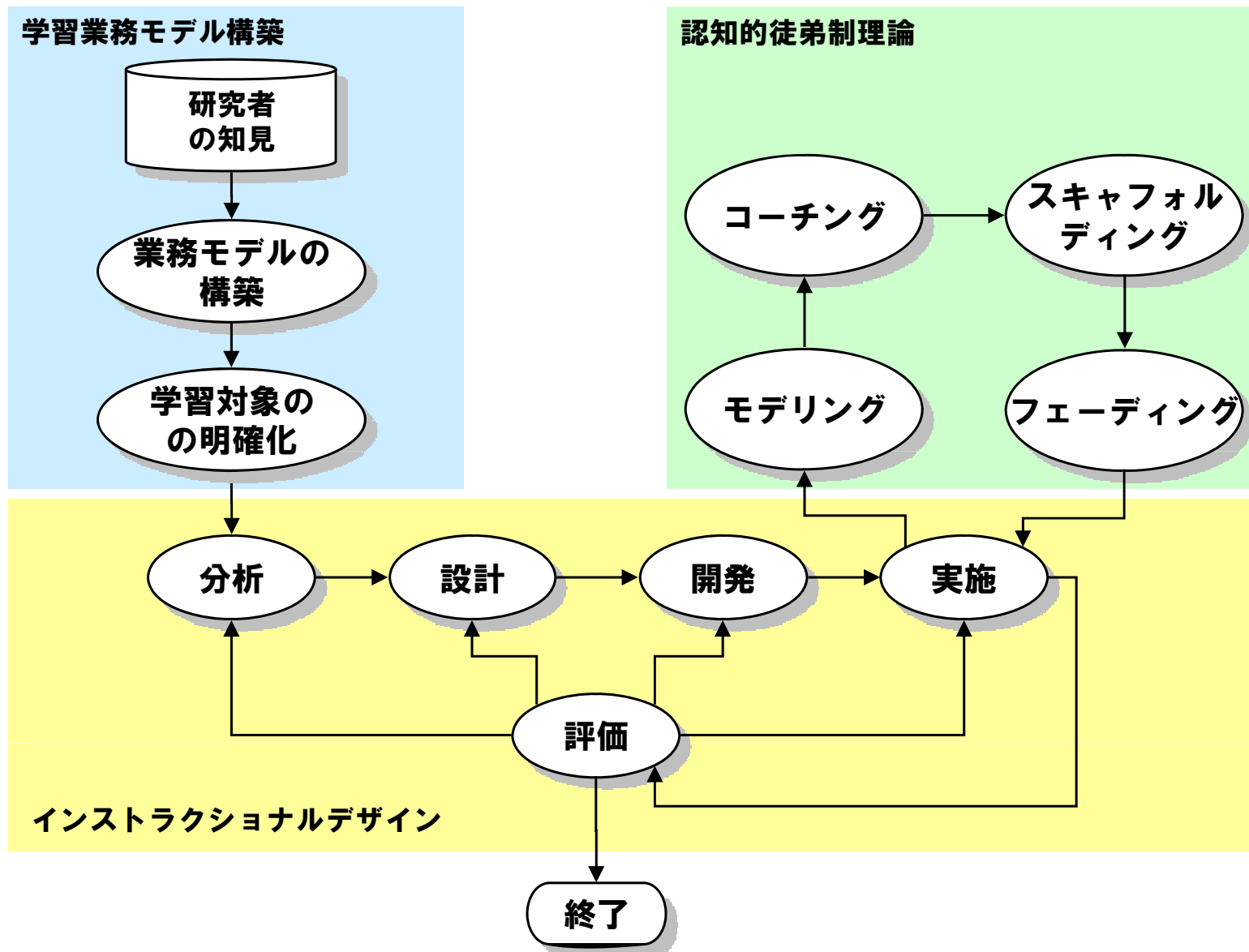


R.M. Gagne, et al. Principles of Instructional Design, 5th Ed. (2005) Wadsworth





効果的な学習モデルを組み込んだ人材育成プロセス



効果的な行政対応態勢の確立： 効果的な研修・訓練システムの確立【林チーム】

15:40 チーム紹介

京都大学防災研究所 教授 林 春男

15:45 報告1:「状況認識の統一のためのEmergency Mapping Center活動」

京都大学生存基盤科学研究ユニット

助教 浦川 豪

16:05 報告2:「被災者台帳を用いた統合的な生活再建支援」

新潟大学災害復興科学センター

助教 井ノ口宗成

16:25 ディスカッション